

## 景観問題とデザイン

### Design to solve landscape problems

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 伝わるデザイン研究室  
金子翔太 指導教員 川崎 紀弘

キーワード：景観、観光客、オーバーツーリズム、ごみ、看板

#### 1. 研究目的

私がこの問題について考えようと思ったきっかけは、まだ幼い頃に旅行に行った際その美しい景観が、周りに立っているホテルやパチンコ店などのネオンによって損なわれてしまっており、少々気分が落ちたという体験があるからだ。そしてインターネットなどを見ているとこれらの建物が景観に悪影響を与えており、なんとかならないかといった声が多かった事から、今回この問題について取り組むことにした。

#### 2. 調査内容

現在観光地で起こっている問題点などを新聞の記事や論文などを読み調査し何を解決するべきかについての模索を行い、既存の対策にプラスできるようなアイデアを考案する。今回の調査でわかったのは現在では多くの観光地などで対策条例がとられ、昔見たような観光地の景観がネオンなどによって失われるといったことは近年ではあまり起こりえないという事わかった。現在起こっている問題として根深いのが外国人などによる多数の観光客の流入と、それにもなうマナーの悪い客やゴミを道端に捨てる客、そしてそれらを抑止するための巨大で多言語で書かれた看板などが景観を破壊しているということだ。これらは日本の人気向上し観光収入があがっているという事実の負の側面であり、これらについて対策を考えていく。



#### 3. コンセプト及びアイデア展開

上記の調査結果から、私が提案するコンセプトは観光地においても景観をあまり阻害しない看板やゴミ箱などや、それを支えるシステムだ。始めてきた外国人でもこうしなければいけないと一目でわかるような看板などの設置、ゴミが溢れないような大きくそれでいてスマートなゴミ箱などとそれに付随する円滑なゴミ収集のシステム。これらの課題について取り組むことで現在の観光地問題が多少なりとも軽減され誰もが美しいといえる景観を生み出せるのではないかと考える。

- ① 看板やゴミ箱などのリデザイン 現在あるゴミ箱や看板では多数の観光客をさばき切ることができず、溢れてしまって景観を阻害してしまっている。そこで私が考えたのが電光掲示板やセンサー検知による自動でのゴミ収集装置だ一見するとあっていないように思えるこれらのものだが、電光掲示板については文字をアナログの看板のように詰め込む必要も

ないため、非常にコンパクトに収める事ができ、外観などについても木製などの箱もので

覆ってしまえば、あまり気にならないと考えデメリットよりもメリットのほうが上回っていると考え。センサー付きのごみ箱については一定の量たまったら自動で袋の封を閉じ、新しいゴミ袋を付け替えるというタイプのものに着目し、これによってゴミが溢れにくいようになるのではないだろうか。そしてそのごみ袋も一定以上たまったら業者が回収するシステムをつくることで観光地のごみ問題も多少なりとも抑えられると考える

- ② 行政による管理と法 ①によって提案してシステムなどは行政の管理なくしてこれらの提案は成り立たない、ゴミ箱の管理や電光掲示板の管理などを個人レベルで任せるのではなく市が一括で管理することで今後起こりうる問題点などにも陣層に対応しやすくなったりすると考える。現行の法律のアップデートなども必要だ。日本では観光地などにおいても厳しく取り締まる法がなく外国人観光客などがポイ捨てしたら周りの人は注意することでも

きずそのままということが起こりうる。そこで参考にしたいのが海外の観光地における対策だ、フィレンツェなどでは同じくごみのポイ捨てなどが問題視されていたが行政はランチタイムなどに周辺に水をまきそもそも居座れないような対策をとっている。ここまでは言わないが日本でもポイ捨てというものをより厳しく取り締まることで抑止力となるのではないだろうか。

#### 4. 今後の展開

より深く観光地の問題について調べ、それに対応する提案を積極的に行っていきたい。

#### 5. 参考文献

日本の観光地を台無しにする「看板公害」の実情マナー違反を止めるには「看板」しかないのか 東洋経済 ONLINE 2019. 3. 17

<https://toyokeizai.net/articles/-/269435>